

母の会の計画

青木 泰子

1、概 況

当幼稚園は台東区の中央に位置しておりますが、汽草親音社を中心にした歓楽街及び上野周辺の繁華街からは離れた、中小企業特に小規模の商業家庭の多い地域（60%）で、昭和二十九年に再開園（戦災で閉園）し、園児二三〇名、四二〇坪の園舎敷地が浅草本願寺境内の一郭にあります。

家庭環境は、店舗と住居を一しょにしている家が多く、家族の外

に多数の使用人が同居しており、一般的に雑然としている家庭が多いのです。子どもの教育は母親任せというものの、母親も父親と共に店の仕事に追われる事が多く、教育は二次的に考えられがちです。子どもは使用人或いは祖父母に委ねられている場合が非常に多く、経済的には比較的恵まれているので、小遣いを多く与える、身の廻りの事は周囲の誰かがしてあげる、子どもは遠方の歓楽街や友人の家、デパートにまで遠征して遊び回ることもあるが親は知らぬ場合が多く、またわかつてもそれほど気にかけないということもあるので園の方から親に注意する事も少しはあります。

このような状態ですから、家庭における基本的な習慣づけが殆んどできていない、落ちつきがない、両親の愛情に欠けている、などが当園児の短所面の特長となって表われ、入園希望者も教育的な理由からではなく、両親が忙しいので、という理由で、三才児の入園希望が非常に多くなっています。

2、父母の会 計画と実際

以上の家庭環境の実態を把握し、幼児教育の重要性を認識、理解してもらうためいろいろな形で父母の会を計画し、つとめて教師と父母と接する機会を作ると同時に、一人でも多くの父母に出席してもらうことに力を注いでいます。

四月 父母の会（第一回 級会）

下旬頃になって、担任が園児の顔と名前が一致するようになり

話し合いの素地ができる頃、父母の会を開き、年間の教育方針や一学期の指導方針を説明したり、入園して約一箇月の園児の様子と家庭における様子を話し合ったり、細かい規則や注意事項を話し、担任と父母の繋りの第一歩を踏み出しますが、この会には殆んど全員が出席してくれます。しかし、会を重ね、次第に幼稚園の様子がわかってくるようになると、残念ながらほとんど出席率が低下していくのが現状です。

五月 家庭訪問

五月に入ると、予め家庭調査書をよく調べておき、各組・斉に午後（週一回の職員会、研究会日はのそき）家庭訪問を始め、約一箇月かかって全員の家庭を訪問し、園児はもちろん両親との親近感を深め、問題行動のある園児の原因の究明、家庭生活の背景、また通園の道順や近辺の環境を調査します。生活の実態を掴むため、家庭には五月中に訪問する旨は連絡しておきますが、日時是指定せず突然に訪問します。訪問した際、応待するのは殆んどが母親で、父親は見向きもせず仕事を続けており、話に惹かれてくれず困惑することがしばしばあります。

保育参観（第一回）

園の生活に大分慣れて、無断で家に帰ってしまうことがあったり、母が園に來ても離れていられるようになるなど、保育参観日を一日設けて幼稚園生活の一日を参観してもらいます。母親はこの日を楽しみにしており多数出席します。

六月 講演会（第一回 全体会）

P.T.A文化部の主催で講師を招聘して講演会を開き、幼児教育に関する親の正しい考え方や在り方などについて講演を聞きます。全体会をする時は出席者が大団集まるまで、讃歌や、園で園児が歌っている歌を放曲指導いたしますが、文化部のお母さんたちが楽譜を印刷したり、ピアノ伴奏や歌唱指導もいたします。

七月 父母の会（第二回 級会）

一学期間指導に当たっての諸問題や様子を懇談したり、夏休みの過ごし方などの注意を与えたり、夏休み帳（三歳児には与えない）の刊用法や記載されている歌の指導をしたり、時には、園医先生に夏の健康生活についてお話していただくこともあります。五歳児の組は父母の出席率を良くするため、五月に行なったウイスク知能テストの結果をこの会において説明します。

毎月 教育相談（一回 個人）

毎月一回相談日を指定して、個人的な教育問題の相談を受けたり、担任の方から父兄に相談したりしていますが、一度に多勢重ならないように、前日までに申し出てもらい、相談する時間を打ち合わせておきます。しかし、出席率が非常に低く、熱心な人は毎回來ますが、担任の方から相談したい人は連絡してもなかなか来てくれないような状態です。その理由の一つとしてあげられるのは、父母の会のように園から一斉に召集した場合は家を出やすいが、そうでない場合には年寄りあまり賛成しないので出にく

いと言う母親が案外多いので、この会の持ち方についてよく検討しなければならぬと考えております。

九月 講演会 (第二回 全体会)

P・T・A文化部が主催し、保健所の医師と栄養師にお願ひして、夏の疲労が表われてくる九月の幼児の健康や食生活について講演を聞いたり、相談をしたりいたします。出席率を良くするため、行事写真の申し込み受付などを、その日一日限りとして講演会の計画に織り込むこともあります。

十一月 保育参観日 (第二回 父親参観)

いろいろな会には母親が出席する場合が多く、父親はあまり関心を示さないで、日曜日に保育をして父親の参観日とし、特別な理由のない限り必ず出席してもらい、幼稚園教育を理解してもらうのです。

十二月 父母の会 (第三回 級会)

二学期の保育の経過などについて説明したり、冬休みに入るにあたり歳末やお正月の生活についての注意事項を話し、その他いろいろと懇談します。また四歳児の組は十一月に行なった知能テストの結果についての話し合いも含めます。

二月 父母の会 (第四回 来年度新入児父兄)

来年度の新入園児の父母を対照として開き、園長先生または講師の先生より、幼稚園教育の正しい考え方や両親の心がまえ等についてのお話しや、四月の入園式までの諸準備を説明します。ま

た通園バスのコースを説明し、各自の集合場所(停留所)を決めます。

三月 保育参観 (第三回 両親)

進級或いは卒業に当り、園児のすっかり成長した姿を両親に参観してもらい、園児・担任・両親がいっしょになってゲームなどをして遊ぶこともあります。

父母の会 (第五回)

年度最後の父母の会を開き、担任も親も和やかに苦心談や思い出話などをし、立派に成長した園児を無事に進級・卒業させることの喜びを語り合います。

3、母の会の組織と実態

a、大谷派母の会

当園にはP・T・Aと大谷派母の会の二組織が平行してあります。先ず大谷派母の会について説明しますと、現在では京都本山の大谷派保育研究室を中心として活動しており、真宗大谷派保育協会に参加する幼稚園・保育園の、母の会相互の連絡提携をはかり、真宗の教旨に基いて母の会向上発展にとめるといふ目的をもって組織されており、全国の真宗大谷派保育施設(幼稚園・保育園)が三十教区に分れて所属し、それらを統合して真宗大谷派保育協会連合母の会という大組織を結成しています。(昭和三十三年発足) 当園はこの内の東京教区(東京・神奈川・埼玉・群馬・茨城・栃木・山

梨・長野)に所属し、徳風幼稚園大谷派母の会と称しており、園児が入園すると、母親は必然的にこの会の会員となります。委嘱した母の会会長一名、委員二名が交替して年に数回の京都などにおける保育研修会に出席しています。一家の主婦か家族や子どもを残して泊りがけで出掛けるのは並大抵の事ではないのですが、それにも増して得る事は大きいようです。育児についての全般的な問題や毎日の生活における理想と現実の矛盾などの具体的な問題について討議したり、講話を聞いたりして、冷静に我が子の、或いは幼児教育全般について考え、同じ立場で悩みをもっている全国の母親と語り合える機会となつて非常に有意義であり、ありがたいと、参加した母親は言っております。

b、PTA

PTAについては年度始めにアンケートにより希望者を募り(大谷派母の会役員とは別に)、総会において役員を委嘱します。年に五、六回の役員会を開き、庶務部が中心となつて運営しておりますが、あくまでも園の教育方針に添つて自主的に積極的な協力を得ております。

このP・T・Aには庶務部、体育部、文化部、母の部の四部門があり、全役員にこの内の何れかに所属してもらい、園の先生か二名ずつ世話役としてついています。

庶務部は主に事業の企画運営や渉外連絡に当り、体育部には、園で計画した春秋二回の運動会などの準備から後片付に至るいっさい

を自主的に行なってもらいます。

文化部には、園の「父母の会計画」の一端をエフロン会と称する会を以つて押し進めてもらいます。

エフロン会とは、商売熱心な父親を、或いは服装など虚栄に流れ易い母親が気軽に一人でも多く出席できるように、仕事着、エフロン姿で出席するという会で、PTA会員相互の親睦、教養の向上、幼児教育に対する認識を高めてもらうための講演会を始め、コーラス、フォークダンスの会、茶話会、映画会、料理他の講習会を開きます。また大谷派母の会研修会に参加した人の感想や報告も、このエフロン会において発表し、大谷派母の会会員としての意識を深めるようにしています。

母の部には以上の何れの部にも属さない雑用に類すること、例えば園児が製作した七夕の笹飾りを笹に結びつける仕事、人形などの修繕とかPTA新年会、卒業時の謝恩会の準備などに協力してもらうのです。

4、今後の計画

園児は卒業すると若葉会(同窓会)会員となり、その父母たちが任意に加入して若葉父兄会を組織しています。一年に一回若葉会を開く際、同時に若葉父兄会も別会場で開催し、和やかに会食、歓談し、幼稚園との繋りを保っておりますが、園の発展のため将来は後援団体として発展させていく計画しております。(浅草本願寺徳風幼稚園)